

# 15

## 第15章 持続可能性

### - 金融と持続可能性の関係について学ぶ

本講での学習のゴール（講義後に学生は以下の事項ができるようになっている）

- 個人の金融行動が家計のみならず、社会全体のあり様や地球環境にも影響力を与えることを理解できる
- 旧来からの共助的な地域金融のシステムや世界の動向を理解できる
- 持続可能な社会の実現に寄与しうる金融商品の開発ができる

#### 学習の狙い

個人の金融行動が個人レベルだけではなく、社会経済や地球環境に影響を及ぼし得ることを知る。いまや公正で持続可能な社会の実現を目指すことは、世界の常識となっていることに、金融リテラシー学習の視点から再確認する。個人の金融行動により、公正な社会経済や地球環境の保全に貢献するにはどうしたらよいか考えられようになる。

#### この章の概要

個人レベルで社会的な投資ができ得るのか、被災地ファンドを例に考える。同様に、現在も進む市民ファンドについてその実情を知る。それらやエコファンドなどが、従来の株式や投資信託とどこが違うかを考え、その金融商品としての目的や投資家の意識と行動、世界の動向などを学ぶ。

#### [Case 15-1]

未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの地元事業者の再興を支援するため、震災の後、多くの被災地ファンドの募集が行われた。事業規模に応じた出資目標額を定め少額のファンドを販売する。調達した資金でやがて事業が安定し、収益が得られるようになったら特産品などの配当を行う。なお、定めた期間満了により出資金の一部は返還される。寄付による支援もあり得るが、寄付金による支援とこのファンドによる支援を比較した場合、支援を受ける側と、支援をする側の双方にどのようなメリットやデメリットがあるだろうか。また、あなた自身はどちらの支援の形を選択したいと考えるか、その理由は何か。

### [Case 15-2]

沖縄には古くから、「もあい」と呼ばれる地域住民相互による資金融通の慣習がある。10～12人程度でグループを作り、飲食や雑談のために毎月1回寄合いのように集まる。その際には1万円などあらかじめ決めた額を持参する。話し合いでその月の借入を受ける人を決めて記録する。グループ全員から資金提供を受け、必要な支出にまわすことができる。毎月、借入は順番を決めて行われるいわば庶民金融である。あなたはこの仕組みをどう考えるか、あなた自身も参加してみたいと思うかどうか。そして、その理由は何か。

#### キー概念

- 持続可能性
- 共助
- 市民ファンド
- 社会的責任投資
- 金融排除
- 地域通貨
- 消費者市民社会

#### キー概念解説

**持続可能性 (Sustainability)：** 本来的に持続可能性とは、生態学意味としては、天然資源の枯渇や自然破壊などを引き起こすことなく維持できる人間の経済活動や文化活動を指し、経済学的意味としては、経済活動において一定の水準で成長を維持できる能力を言う。しかし、一般に、この両者をひとくくりにして、将来世代のために地球上の環保全を図りつつ、天然資源の浪費を行わない開発を言うことが多い。

**共助：** 互いに助けあうこと、とくに地域における支え合いを言う。個人や、企業、NPOなどさまざまなレベルで社会的な見地から助け合うことの重要性認識から、最近は好んで使われることが多い。わが国では古くから、講や無尽と呼ばれる相互扶助的な金融の仕組みが存在していた。持続可能性を検討する際のキー概念でもある。

**市民ファンド：** 市民から出資を募って、その集めた資金を運用する事業。市民参加による自然エネルギーの普及事業や、市民活動により社会的事業を運営する主体を支援するタイプが多い。

投資商品だが、投資家は、配当や利回りなどのリターンよりも、その事業活動の社会制に意義を見出して拠出する。

**社会的責任投資（SRI）：** Social Responsible Investment、略して SRI と呼ばれる。従来の投資は、おもに企業の財務分析などの指標をその判断の基準としていたが、SRI では投資対象とする企業の活動を社会的公正や倫理、環境への配慮などの観点から評価を加えて投資を行うものである。現在、さまざまな SRI ファンドが販売されている。エコファンドも SRI ファンドのひとつ。

**金融排除：** 特にヨーロッパなどでは低所得者や移民層などが十分な金融サービスが受けられないことが問題となり、様々な取り組みが試みられてきた。途上国などでは金融サービスにアクセスできない、あるいはできにくい人々が多く存在し、金融環境の整備によって金融排除をなくしていくことが G20 財務相・中央銀行総裁会議の主題にもなっている。排除された人々への金融リテラシー教育も喫緊の課題である。

**地域通貨：** 一般に流通する通貨とは異なり、限定された地域でのみ使用できるお金を指す。通貨が経済的価値を体現するものであるのに対し、地域通貨は人間的価値の回復を目指し、地域・コミュニティの活性化、地域文化の振興などのために地域団体や NPO などにより発行される。

**消費者市民社会：** 「自らの消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼし得るものであることを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画する社会」と、2012 年に制定された消費者教育推進法は定義する。金融商品の購入による消費者市民社会の実現も可能であることを示している。

**[Work 15-1]**

市民ファンドを提案してみよう。目的とする事業、調達する資金目標と売り出し価格、投資者への分配に関する説明などを議論したのちに、以下の内容を明示して提案すること。

- |             |          |
|-------------|----------|
| ・ファンド名      | ・契約期間    |
| ・募集総額       | ・目標利回り   |
| ・申込単位（1口金額） | ・申込手数料   |
| ・募集口数       | ・中途解約の可否 |
| ・分配期間       | ・募集期間    |

**[Work 15-2]**

ミヒャエル・エンデは「エンデの遺言」の中で、根源からお金を問うとして、モノは年月とともに劣化していくのに、なぜお金は利子がつくなど価値を増していくのか、それは果たして人々に幸福をもたらしているかと素朴な疑問を投げかけた。

そして、現代貨幣システムへの警鐘として、地域通貨を紹介している。さて、どんな地域通貨を生み出すのが、人々のつながりやコミュニティの活性化などに寄与しうるか。現在の居住地や出身地、あるいは特定の地域を定め、その目的や名称、交換の方式などについて話し合い、その有用性、可能性につき提案してみよう。

Student ID:

名前:

提出期限 月 日

**[Homework 15-1]**

金融排除を解消する取り組みの実際について、とくに海外事例を収集し報告しよう。

**[Homework 15-2]**

道徳経済合一説を唱えた渋沢栄一（1840 - 1931）は、日本の近代産業の父と呼ばれるが、経営学の神様とされる P. ドラッカーがその功績を讃えるほどの人物である。実業家として、渋沢がどのような功績を挙げたのか調べてみよう。